

1. 件名：新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（島根2号機設計及び工事計画）【18】
2. 日時：令和3年11月11日 10時00分～12時00分
3. 場所：原子力規制庁 9階D会議室（TV会議システムを利用）
4. 出席者（・・・TV会議システムによる出席）

原子力規制庁：

新基準適合性審査チーム

義崎管理官補佐、藤田審査チーム員、中村原子力規制専門員

事業者：

中国電力株式会社

電源事業本部 担当部長（原子力管理）他9名

## 5. 要旨

- (1) 中国電力株式会社から、島根原子力発電所2号機の設計及び工事の計画認可申請書のうち、原子炉压力容器の脆性破壊防止に関する説明書及び安全弁及び逃がし弁の吹出量計算書について、令和3年11月8日の提出資料に基づき説明があった。
- (2) 原子力規制庁から、主に以下の点について説明を求めた。

### 【原子炉压力容器の脆性破壊防止に関する説明書】

先行プラントとの中性子照射量の相違について、炉心形状がどのように相違するため、中性子照射量に影響するのかを説明すること。円筒胴3及び円筒胴4の溶接の施工法について、具体的に説明すること。また、破壊靱性評価箇所の図中の点線・実線の意味を記載すること。

中性子照射脆化を考慮した破壊靱性の評価部位の代表性について、その他の部位の中性子照射量も示し説明すること。

中性子照射による関連温度の移行量等の算出過程について、具体的に説明すること。

監視試験片取付図について、先行プラントの記載を踏まえた上で詳細に記載すること。

脆性破壊防止に関する評価対象及び評価方法の選定については、フロー図を用いること等により選定過程を説明すること。

冷水を注入するノズルにはサーマルスリーブが設けられているため冷水が直接炉壁に接することはないとの説明であるが、サーマルスリーブの構造、原理について図示して説明すること。

**【安全弁及び逃がし弁の吹出量計算書】**

表中の安全弁及び逃がし弁について、系統名を明確にすること。  
申請の対象としている安全弁及び逃がし弁について、既工認対象の安全弁及び逃がし弁を系統図やリストなどで網羅的に示した上で、その選定の考え方を説明すること。

必要な吹出量を設定する根拠となる設計弁座漏えい量について、弁座漏えい量を考慮する弁の位置を示した上で対象弁を選定した理由を説明すること。

想定熱膨張量を設定するための系統内の保有水量について、設定の考え方を詳細に説明すること。

( 3 ) 中国電力株式会社から、本日説明等を求められた内容について了解した旨の回答があった。

6 . その他  
なし